

はじめに

座長 横山氏

先ほどの基調講演もなかなか皆さんの活動にピンとくるようなヒントがあったかと思いますが、ここで発表しながら自分のやってきたことを振り返って、いろんな人がいろんなことを発表して下さると思います。みなさんの中には、自分たちの元気につながる事だとか、いろんな要素がたくさんあると思います。そこで、積極的に質問してください。後ろの方にも、積極的に質問してくれればいいかなと思います。そして、自分達でいっぱい持ち帰って、今後の活動に磨きをかけて頂けるような会にしたいと思っていますので、単に発表の場にとらえるのではなくて、自分たちの活動の場を広げるヒントを持ち帰る場と思ってもらえたらいいなと思っていますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

「麻・藍・布」歴史の結びつきを今日に再生するまちづくり

滋賀県愛荘町役場 まちづくり推進室 林氏

Q：現在麻はかなり特殊な所にしか使われなくなっていますが、近江の麻はどのような特徴があるのですか？

A：確かに麻という繊維は、全体の繊維の産業の中では非常に小さいものであるのですが、だから残れたというところがあります。特徴はあまりないですが、近江は生産から仕上げ加工まで、全ての工程が近江でできるというところがあります。他の地域では、仕上げ加工の技術が伝わっていない状況があるので、すべての工程が滋賀でできるというところが強みです。

Q：コスト面は安い？

A：全ての工程が見えるので、嘘がないのがメリットとして売っていただけらなと考えています。

Q：麻が2種類出てきたが、その違いは？

A：近江上布というのは、国の指定の伝統的工芸品で、こういった過程で作られたものが近江上布と名乗れたりしますが、それだけでは商売にならないので、少し緩くした形で洋服地とかに取り組んでいるのが近江麻です。

Q：今回の発表で面白いと思うのは、スタートの時に、近江上布を資源と考えた時、実は、それは麻そのものを作っているところ、染めているところ、加工しているところがタイアップして、本当なら自分たちの町でしか発信できなかったものを、3つの町で発信できることで、少なくとも3倍以上の効果が見込めるのではないかということ。そこで、今ためている色々な歴史、観光資源を磨いて、それにのせていけば、3県の足並みはそろえないかもしれないが、他の地域で情報発信できることになる。発信拠点は沢山もっていた方がいい。それによって化学反応が生まれ、次の段階に進めるチャンスが自分の所でやっているより生まれるのではないか。

A：あります。一つの地域での情報発信は、発信力がしれていますし、それが全国展開することで、お客さんも広い地域から来てもらえる。また、直接ビジネスチャンスとして、各産業が結びついて、実際、新しい商売になっていると聞いている。

横山氏：中小企業がRinというアンテナショップを作って、かわいらしい手ぬぐいを作ってくるようになった。そういった日本の独特の柄を今の人たちが使えるようにして、どんどん需要が増えていって、別の魅力を誰かが見つけて、産業が変わっていくというしつらえもあるので、古くていいものを古いままにするのではなく、その辺の視点を入れて、ネットワークで発信していくと良いのではないかと思います。

東堅町の歴史的文化財・人材を生かしたまちづくり「文化祭と文化講座」

東堅町自治会文化委員会 委員 達富氏

Q: 色々な取り組みを自治会でやっているのが凄い。参加者はどうやって参加するのですか。

A: 好き勝手に参加してもらっている。どんどん口コミをやっている。そんなに広報していない。このはがきは私が原画を提供し、地域のお年寄り(平均年齢68歳)が、はがきを作成している。

Q: IT 関係は、どういう方をお願いしているのか。ホームページの維持はそれなり大変だと思うけれど。

A: ホームページビルダーの本を読んで、マスターして、私が出来るようになった。やらなければならないという義務感から、それだけで一生懸命やりました。

Q: 段階の世代がどんどん高齢化していく中で、介護保険料も底をつき始めているという話があり、外に出て行く、外で楽しむといったことをやって、要介護者にならない仕組みをまちの中でつくっていくということがとっても大事で、おしゃべりの会のみみたいなそういう場所が、元気なうちから大事。

A: 元気じゃなくても大事。私は、今、元気に喋っていますが、実は、脳梗塞にかかって、医者には3年しかもたないと言われた。それから7年たっていますが、このように喋れている。自分の健康、安全は、いろんなものは自分で守らなければならない。

横山氏: 地域にとってすごく大事なこと。そんな課題がどこかにあって、それを難しく考えるのではなく、出歩けるようなこと、一緒に考えることがあれば、要介護にならないですむ可能性がすごくあるような取組でした。

捨てるのもったいないものを有効利用する市民の輪を拡大!

NPO法人 住まいみまもりたい 理事長 吉村氏

Q: すごいですね。今現在起きている、地域の課題を全てやっているそんな感じですよ。エネルギーとかパワーとか。アイデアを事業にするその手腕はすごいですね。こういうソーシャル型というかコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスとか言われますが、ビジネスにするには、ワンステップ、ツーステップも上がっていかないといけない流れの中で、次々と行われているのですごい。

A: はじめからコミュニティビジネスとして取り組みました。こんなことをやって欲しい、あんなことをやって欲しいとお客さんから言われるんです。それで行って、500円頂戴と言うんですね。ただで行くのではなくて、全て対価として。この子たちの給料になるという形で。初めからボランティアという無償というのではなく、ビジネスという手法でいきました。

Q: 私は、NPO 団体ですが、実は6年前に見学に行きました。今日も久しぶりに会って、雑談していたのですが、今のお話を聞いて、当時からありのままに説明されていたのですが、当時から感動したというかびっくりしました。我々も同じことをやろうと思って計画しましたが、結果的にはダメになりました。本当に素晴らしい活動をされていました。さらに、当時は野崎商店街がシャッターで閉まっていたのが約20%。現在は0になって、前進されておりまして、行政と連携しながら廃棄物を処理する活動など、言い出したらきりがありませんが、驚くべき実行力だと思います。ありがとうございました。質問じゃなくて感想です。

Q: フィールドは野崎商店街、ここだけでやっている?

A: いいえ、大東市全域で行っています。寝屋川市、四條畷市、大阪市からも搬出の依頼があれば行きます。

横山氏: この関西元気な地域づくり発表会は、今年で8年目です。最初は、皆さんの悩みは、資金がないという話と、行政からの補助金の話、後継者が育たないという話で、その頃は、ビジネス化といった話がなかったんですよ。でも、皆どこかで思っていて、それを言うようになったらどうなるんだろうというのがあった。NPOが法改正されて、格が変わってきているということも背景にあるのでは。ソーシャルビジネスをどうバックアップするか、それを本当に実践するのはなかなか難しい話だなと思う。

Q: ワンコインで行った時の対価が500円で、ボランティアしないというのは、私たちもそれでやっています。ボランティアの考え方はあまり考えずにやっているのですが、経費が伴いますよね。ガソリン代など。そういうところは、最初の頃はどのようにしていたのですか?

Q: 最初の切り口は、タイトルにある「捨てるのもったいないものを有効利用」ということですよ。スタートはそこにあるんですよ。

そういう資源が、実は、放棄されてしまっている物をちゃんと拾うと、そこも収入源になりますよという話があると思う。

A: いきなりするのではなくて、本当に、粗大ごみを捨てに行ったら、捨てるにはもったいないものがたくさんあるから、野崎の商店街でサロンをしようか。サロンをかまえると、こんなことやってほしい、あんなことやってほしいと言われ、だから、いきなり事業外が膨れ上がったのではなくて、はじめは一つの事業でしたが、ニーズによって膨れ上がってきたと。そしてお金をいただいて事業を拡大してきたと。

Q: さっき、成功した方と、失敗した方の話を非常に興味深く聞いていたのですが、今、NPOは、男性の年配の方はおられるんですか。

A: 利用していただく方は、皆さん年配の方で、作業しているのは若手です。

Q: 経営は？女性ばかりで？

A: 男の子達が主体でやっております。お店は年配の女性が主体です。

Q: 私は観光事業者です。今後、観光をやっていかれるということですが、どういう観光の持ってかれ方をするのか？

A: 野崎観音、専應寺、堂山古墳と環境が整備されてきたので、観光バスも止めることができました。桜の時期とか桜の名所もありますので、観光バスを呼びこむのは今からになりますね。

Q: 野崎に非常に興味があります。参道商店街には、寅さんのように、名物まんじゅうなんてものはあるのですか？昔は野崎参りなどあったと思うのですが。

A: 今からなんです。1件だけなんです。野崎参りはお土産屋さんがないんです。野崎観音の城下町ではないんですよ。ただ、市場があったので商店街ができて、観音さんと商店街は連携していなかったんですよ。今からなんです。

地域の情報基盤の構築と地域情報の収集・活用

NPO 法人 HINT 副理事長 井上氏

Q: 地域づくり活動の中間支援で、情報の部分を支援する NPO ですよと言われていて、何か困っていることがあればどうぞということなのですが、どなたかありますか？動画を配信して、とりあえず、ホームページも作って、ブログも作って、それはとても忙しいことだと思いますが、そうやって発信していくと、今、ほんとにインターネットで検索しても探さないといいですか。ニュースもそこから拾うじゃないですか。活動を発信するには、インターネットに載せないでだめだよねというのが世の中の風潮じゃないですか。そんな中で、載せたいなと思いつつ、我々にはできないなと思っている団体があれば、今は、このような中間支援団体ももっと立ち上がってきていて、そういうサービスを行っているという事ですよ。

A: 補足ありがとうございます。

Q: 一つ聞きたいのは、逆に情報選択能力というのは、どのように養えるのか。最近情報が氾濫しすぎていると思う。逆にそれが問題だと思っている。

A: 誰が発信しているかが一番重要だと思っています。皆さんは活動されていて、モラルのある方々なので、そういう方が作られる文章は、当然、誹謗中傷はないですし、第三者からみられているということを意識して発信されていると思います。こういう世の中になっているので、使えるものは使ったらいかがですかということをご説明させて頂きました。

百舌鳥・古市古墳群

(株)アスウェル 黒川氏

環境と生活が調和するまちづくり

NPO 法人 羽曳が丘 E&L 西田氏
大阪府立大学 根来氏 音村氏